

地方出版  
情報誌

情報誌

# アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター  
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20  
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

## 銀山書房が考えていること 地方と思想

福岡県、九州は古代以来の複雑・屈曲の歴史をもつ風土  
そこにいる人々、通底する思想を見てみたい

文・首藤 卓茂

銀山書房は福岡市の山中に構えるネット古書店・かぼちゃ堂の出版部である。やっと昨年11月に第1作を上梓したばかりなので、その紹介からはじめたい。

「福岡県の城郭」、同刊行会編。福岡県下には1000以上の城郭があるというが、本書は中世・戦国期の山城で調査が終わったもの、著名なものを中心に222城の概要、測量図などをまとめたものである。本州と境する北九州の海峡、大陸との交易都市・博多、古代以来の九州の政治的中心地・大宰府をもつ福岡県はその多様な歴史にいろどられて多くの山城をかかえている。

刊行会の主力のメンバーは北九州中近世城郭研究会の会員で、これまで山城探索の例会や研究会をこの10年来つみかさねてきて、その成果を一旦まとめるということになり、38人による執筆ということになった。価格3500円(税込)、書店の反応もよろしいようである。

特長としては多くが踏査、またコンパスや平板による測量の成果を盛り込んでいることである。これは近來の行政調査の進展ともあいまって、執筆者の多くがその担当者であったりしている。もちろん在野や専門の研究者もいて、城郭研究に文献に加えて考古学的手法を反映させているといえよう。これまで九州の城郭研究はというと東京・関西の研究者の草刈場であったといわれ、地元研究者は臍をかんでいたという。その反撃の第1弾の役割のいくらかを本書が担ってくれたらと版元としてはひそかに期待してい

る。

今後のことについては何の実績もない版元が子犬の遠吠えよろしく願望をここに記すということになる。いま考えているキーワードは地方と思想である。先に述べたように、福岡県また九州は古代以来の複雑・屈曲の歴史をもつ風土であり、この地方、地方性にこだわること、またそこにいる人々、そこに通底する思想を見てみたいものだと考えている。

いま進行中なのは「九州考古学の先駆者たち(仮称)」(第1巻福岡県)で、年内に刊行予定。今日の考古学の現状はというと行政調査や研究者による調査が主流で、在野の出番がいちじるしく小さい。しかし昭和初期や大正期またそれ以前にも各地に仕事をほおろだしたり、あるいは家産を傾けたり、いわば憑かれたような人びとが在野に少数ながらいて、土器などの遺物の収集や遺跡の発見につとめて地域史を編んだり、人を育てたりしてきていた。もはや忘れ去られた人々である。はたした業績からいうと、たしかに今日の「近代」考古学の基礎を築いているわけで、かくなる人々の記録を読み解き、あるいは聞き取りをおこない小伝記集として残したいというのが本書である。執筆20名弱で、いま進みつつある。

本書房は古書店の出版面の顔ということを最初に紹介したが、つぎはこれまで発行してきた年刊雑誌「ふるほん九州」の第5号の出版である。第3号までは福岡古書組合刊で「ふるほん福岡」の誌名

とし、福岡・北九州の古書店の案内マップ、古書目録、エッセーで構成。エッセーは福岡九州の作家、古書愛好者・研究者をお願いしてきた。古書愛好者や地元書店には好評であったが、財政面で廃刊の憂き目にあい、第4号は新たな同人組織を立ち上げ誌名も改題し、より福岡九州の風土を意識した編集で刊行した。いま組織の再編を考えながら、第5号の収支や内容の構想を練りはじめている段階である。

ほかに企画中なのが、「筑豊頭領伝」、今回の「福岡県の城郭」につづく「大分県の城郭」である。まず「筑豊頭領伝」から。九州福岡の歴史や文学を考える上で欠かすことができないのが炭坑とその労働である。明治初めの炭坑開削にあたっては知識もさることながら荒くれの坑夫を統率できる胆力ある頭領を必要とした。各地を旅した招かれて炭坑の採掘に当たったが、やがて近代資本による掘削法、労務管理が進むなかで頭領たちは駆逐されるにいたる。個性あふれる荒ぶる頭領たちの列伝の翻刻と研究者による解題、詳細な人名地名事項索引を刊行にあたって構想しているが、作業は一部終えているところだ。

「大分県の城郭」刊行については今後のライターとの話で、詳細は未定。大分は戦国期には九州の北半分を支配した大友宗麟など大友氏が存在があり、各地には割拠する武將の存在がある。そういう緊張関係のなかで山城の構築はつづいた。その後の政治の流動化のなかで一層すすむ。隣する福岡とのかかわりは見逃せず、その意味では「福岡県の城郭」の兄弟編にあたる。できうれば、九州各県の城郭につなげていきたいところだが、研究レベルとかライターの厚薄とかいろいろ問題が山づみしていると、今回「福岡県の城郭」を編集した一人は言っている。ながい仕事になる気がしている。

(すどう たくも/銀山書房代表)

# 新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

## 『妊娠』 ●拓殖あづみ / 菅野摂子 / 石黒眞理著



いまの日本で妊娠することはどんな経験なのか。また出生前検査(出生前の胎児の発達や特別な病気や障害の有無を調べる検査)を受けるか受けないか。その結果、どう対処するのか。本書は妊娠経験について375人の女性へのアンケートと26人の女性にインタビューした結果をまとめたもの。特に今まで語りにくいとされてきた出生前検査についてスポットを当てたことは、画期的

な調査と言える。女性がどんな選択をしてきたか。医療者や夫がいかに悩みを受けとめられたか否か。「アンケート編」「インタビュー編」「調査からわかったこと」の三部構成で、どこからでも読めるように工夫されている。女性はもちろん、男性にも手にとってほしい、貴重な一冊。

◆2940円・四六判・649頁・洛北出版・京都・2009/12刊・ISBN978-4-903127-11-8

## 『琉日戦争1609 ー島津氏の琉球侵攻』 ●上里隆史著



わが国の沖縄政策を顧みる時、まず浮かぶのは、明治政府による1879年の琉球処分(琉球王国の併合)である。だが、近世から現代に至るウチナー(沖縄)とヤマト(日本本土)が辿った歴史的關係の原点は、1609年の島津藩の琉球侵攻にあると見るべきであろう。本書は、そうした視点で、等身大の歴史像を描き出すことを目的に書かれたもので、琉球王国の成立と繁栄、九州の覇者とし

ての島津氏の台頭、琉球侵攻の引き金となった秀吉のアジア制服戦争、その戦後処理を巡る徳川政権の対明交渉など、古琉球と中世島津氏の関係から東アジア国家間外交にまで及んで、侵攻の意味するところを深く読み解いて見せる。

◆2625円・四六判・350頁・ポーターインク・沖縄・2009/12刊・ISBN978-4-89982-170-0

## 『南海地震は予知できる』 ●中村不二夫著



昭和21年(1946)12月21日午前4時、四国及び紀伊半島の太平洋沿岸地帯(高知・徳島・和歌山県)を巨大地震と津波が襲い、死者・行方不明者1443名という大被害をもたらした(昭和南海地震という)。このときの地震の体験から、予想される次の南海地震の予知ができないものか、高知県在住の148名からの当時の地震の前兆現象について貴重な聞き書きをまとめたのが本

書である。たとえば、前日夕刻から海岸は異常な引き潮となった、井戸水が濁れた、海底はヘドロ状で臭気がした、空は赤く焼けた、大きな音が響いた……。これらは地域により差があったが、いずれにしても何らかの通常とは異なる状態を感じたという証言が多かったのも事実である。

◆1680円・A5判・301頁・高知新聞社・高知・2009/8刊・ISBN978-4-87503-140-6

## 『たいようさん まいど!』 ●オカダケイコ著



小さな工場がたくさん集まっている町がありました。工場もだんだん減ってきて車も人も少なく、今この町は元気がありません。主人公のたっくんが、大好きな犬のポチポチに会いに行くと、飼主で工場の社長のプロボさんが話をしてくれました。「こんど おっちゃんら みんなでじんこうえいせい つくるねん おっちゃんらがつくったえいせいが うちゅうにいったらかっこえ

えやろ?えいせいにつくって みんなをげんきづけたいねん!」。でも、おっちゃんらは失敗したり、けんかしたり…。ものづくりの町・東大阪市の中小企業が技術力を結集して人工衛星まいど1号を創り、宇宙に打ち上げた実際の出来事を絵本にしました。

◆1050円・170mm×150mm判・30頁・まいどスペース・大阪・2009/12刊・ISBN978-4-9904942-0-9

## 『いのちに触れるコミュニケーション ールネッサンス京都21「五感」シリーズ5』 ●菅原努著



フェルメールの描く人物やパン籠、セザンヌのセント・ヴィクトワール山等は写真や実物を見るよりはるかに実在感があるが、それは視覚を通して触覚が誘惑されるからだ。また触覚は振動覚を介して聴覚に直結している。そしてヒトの胎児期に触覚は最初に形成される。つまり触覚は最も原初的で他の感覚に通低する基本的感覚なのである。この触覚の性質から開発されたケアと癒しの

技法「タッピング・タッチ」が詳しく紹介される。他に、能における〈ふれる〉〈さわる〉について、魂にふれるアロマセラピー、世界共通言語「ボイスアート」等、〈五感の力と不思議…こころとかからだの再発見シリーズ〉最終巻として触覚を様々な角度から取り上げる。

◆1470円・四六判・173頁・オフィスEMU・長野・2009/10刊・978-4-904570-08-1

# 売行良好書

期間：2009年12月16日～2010年1月15日

## 【出荷センター扱い】※税込み価格

- (1)『新装版 不思議の国のアリス・オリジナル』2100円・書籍情報社 (2)『いそづぶのおはなし』1680円・グランまま社 (3)『機能不全家族』1600円・アートヴィレッジ (4)『原色非実用野鳥おもしろ図鑑』1995円・日本野鳥の会 (5)『ホットケーキ』1680円・東京子ども図書館 (6)『ディサービスワークブック<1>』1260円・木屋舎 (7)『アダルト・チャイルドが人生を変えていく本』1575円・アスク・ヒューマン・ケア (8)『しろくまピース10年のおもいで』1575円・創風社出版 (9)『ゆりちかへ』1365円・書肆侃侃房 (10)『名古屋の市電と街並み』3465円・トンボ出版 (11)『書物の声 歴史の声』2415円・弦書房 (12)『読みきかせ絵本260』1050円・親子読書地域文庫全国連絡会 (13)『殺劫』4830円・中国書店



## 【三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書】※税込み価格

- (1)『東京かわら版 12月号』420円・東京かわら版 (2)『滝山城戦国絵図』630円・揺籃社 (3)『昭和プロレスマガジン 19』1000円・昭和プロレス研究室 (4)『石毛宏典の「独立リーグ」奮闘記』1500円・アトラス出版 (5)『漫画批評 Vol.1』500円・漫画批評 (6)『酒とつまみ 第12号』400円・酒とつまみ社 (7)『真田三代 活躍の舞台』1050円・信濃毎日新聞社 (8)『信州の城下町を歩く』1575円・川辺書林 (9)『よみがえる滝山城』735円・揺籃社 (10)『夜想 #モンスター&フリークス』1575円・スタジオ・パラポリカ

## 【ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書】※センター出荷データより/税込み価格

- (1)『エデュパ芸能ガイド 2010年度版』1365円・夏書館 (2)『Review House 03』1500円・ReviewHouse (3)『nobody IS SUE 32』1260円・nobody編集部 (4)『円周率1,000,000桁表』330円・暗黒通信団 (5)『昭和プロレスマガジン 19』1000円・昭和プロレス研究室 (6)『東京かわら版 No. 433』420円・東京かわら版 (7)『「アメとムチ」の構図』1000円・沖縄タイムス社 (8)『砂上の同盟』1260円・沖縄タイムス社 (9)『K8 vol. 00』525円・こだま屋 (10)『おすすめ文庫王国2009年度版』798円・本の雑誌社

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。  
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

## トピックス — ★★★


### ▼ご当地ヒーロー

彦根城のイメージキャラクター〈ひこにゃん〉や埼玉県のご当地ゆるキャラに続いて、果たしてブームとなるのか。最近全国各地でご当地ヒーローが次々と生まれているもよう。おそらくもっとも知名度があるのは秋田県の〈超神ネイガー〉でしょう。「泣ぐ子(ご)はいぬがあ!」「悪子(ご)はいぬがあ!」でおなじみ、全国的に知られている男鹿のナマハゲ等日本海沿岸に伝わる来訪神「ナモミハギ」をモチーフとした秋田発のヒーローで、これについては『**超神ネイガーを作った男—無名の男—はいかにして「地域ブランド」を生み出したのか**』(WAVE 出版刊老名保著)という本も出ています。当センター扱いの秋田文化出版からも『**超神ネイガーひみつ大百科**』(880円)が刊行されています。沖縄のポスターインクから昨年暮れに刊行された『**琉神マブヤー マブイストーンがデジになってる!**』(950円)は、地元沖縄放送で放映されているという『琉神マブヤー』の図鑑ですが、たとえ放送を見ていなくても、面白く読めることは間違いありません。ストーリーは、ニライカナイからやってきた琉神マブヤーが琉球滅亡を企む悪の軍団マジムンから伝説の秘宝・九つのマブイストーンを守護するというものらしいですが、こうストーリーを述べただけでも、物語設定に組み込まれた沖縄の歴史と文化を知らずして、このヒーローを理解することはできないということがわかります。

## 郵便販売のご注文方法

- ◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。
  - ◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。
  - ◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。
- ★地方・小出版流通センター  
 FAX：03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



# 三省堂書店


BOOKS SANSEIDO

**神保町本店 4階**  
**地方出版・小出版物フロア**

営業時間 10:00 AM～8:00 PM  
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1  
 TEL. 03-3233-3312(代)  
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

営業の  
ごあんない

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。



水道橋駅、御茶ノ水駅、JR中央・総武線、白山通り、神保町駅、みずほ銀行、A5出口、A7出口、すすらん通り、新御茶ノ水駅、御茶ノ水駅、駿河台下交差点、B5出口、小川町駅、三省堂書店 神保町本店